

ロケット甲子園・地方公式競技会

中学生・高校生によるモデルロケットの打上大会であるロケット甲子園・地方公式競技会（東北、関東）が8月に日本モデルロケット協会の主催により開催された。この後、ロケット甲子園（全国大会）が開催され、その優勝校が、翌年の米・英・仏・日4ヶ国の中高生によるモデルロケット国際大会（IRC：International Rocketry Challenge）に参加することとなる。今回、このロケット甲子園・地方公式競技会見学の機会を得たので、その概要を報告する。

(1) IRC国際大会

IRC国際大会はパリエアショー及びファンボローエアショーにおいて、米・英・仏・日の4か国の中学・高校生チームが参加し、全長約1mの中型の自作のモデルロケットを現地で組み立て、ペイロード部に生卵を搭載して打上げ、パラシュートで回収するという競技である。生卵が割れないことが必須である。この国際大会は米・英・仏3か国の航空宇宙工業会が共催している。

当工業会（SJAC）は2016年より、青少年のSTEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics：科学・技術・工学・数学）教育浸透を進めるべく支援を行っている。

(2) ロケット甲子園大会

日本では、日本モデルロケット協会が毎年8月に能代宇宙イベントの中でロケット甲子園大会（全国大会）を開催していた。本年より一層の参加拡大を図る為、地方公式競技会を開催することとなった。

今年の全国大会は10月5日（土）に静岡県富士宮市のあさぎりフードパークで開催される予定である。この全国大会は国際大会と同

じ規定で、ロケットエンジンにF型を使用し、2回の打上げ、高度約250m、飛翔時間約40秒の規定である。

一方、地方公式競技会はロケットエンジンに推力約半分のE型エンジンを使用し、1回の打上げ、高度約120m、飛翔時間を約20秒と設定してある。東北では8月19日に秋田県能代市（能代宇宙イベント会場）で、関東では8月27日に千葉工業大学グラウンドで実施された。

東北大会には3校が参加し、結果は秋田県立能代高校（機体損傷）、秋田県能代市立東雲中学校（成功）、岩手中・高等学校（卵破損）となった。

また、関東大会でも3校が参加し、普連土学園（成功）、埼玉県立大宮工業高校（成功）、早稲田高校（機体損傷）となった。

全国大会には、学校行事の都合上参加できない東雲中学を除く5校に加えて、鹿児島県立楠隼中学校・高等学校が参加し、合計6校が競技を行う予定である。

当工業会としてもIRC国際大会への参加支援を引き続き行っていく予定である。



普連土学園



モデルロケットの発射状況



大宮工業高校



モデルロケットのパラシュート降下



早稲田高校

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部(宇宙担当)部長 宇治 勝〕